

OIC グループとロピアについて

*** グループ理念 ***

**日本の食を届け
新たな文化をつくり
世界の人を健やかに**

*** ロピアのモットー ***

**同じ商品ならより安く
同じ価格ならより良いものを
楽しく感動できる 愛に満ち愛されるお店**

OICグループとは？

(小売): ロピア、スーパーバリュー、アキダイ、REACO

(生産・製造): 丸越醸造、利恵産業、他

(卸・PB開発): ユーラス、日本マイセラ、他

(外食): eatpia、道場六三郎事務所、他

(関連企業): 商人ねっと、タイシシステム、他

計25社(計 23社、海外:2社)

2031年グループ売上 **2兆円**_(目標)

スーパー ロピアとは？

- * 国内：90店舗（15都道府県）
- * 海外：4店舗（台湾）
- * FC点：1店舗（沖縄）

2024年6月15日時点

2023年度売上高 4126億円

- * 2023年1月台湾に海外初出店！
- * * 今後もアジア中心に出店予定！！

園芸作物の輸出産地形成支援に係る 関東ブロック説明会

～資料～

日商樂比亞股份有限公司台灣分公司

水元 均

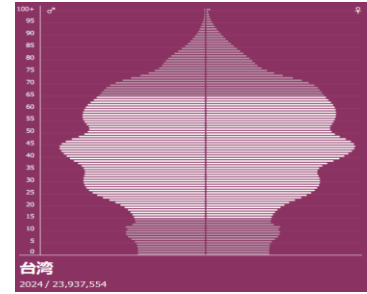
AGENDA

- ① 台湾の基礎データ
- ① 台湾農産物の現状
- ① 日本の農産物輸入の問題点
- ② 日本の農水省に期待すること
- ③ 日本の農業従事者に期待すること
- ④ 日本の農産物のインポーターに期待すること
- ⑤ 日本の市場関係者に期待すること

① 台湾の基礎データ Part 1

台湾基礎データ	
人口	約2,342万人（2023年12月）
面積	3万6千平方キロメートル（九州よりやや小さい）
主要都市	台北、台中、高雄
地形	全島面積の3分の2が高山や林地。島の中部に山地が連なり平地は西に多い。
気候	台湾本島の中央を横切る北回帰線を挟んで北が亜熱帯、南が熱帯地域。長い夏と短い冬があり、はっきりとした四季はない。夏から秋にかけては台風が通過。
言語	中国語、台湾語、客家語等
民族	漢民族（9割以上）、原住民（16民族）、新住民（台湾籍を新たに取得）
宗教	仏教、道教、キリスト教
政治体制	三民主義（民族主義、民権主義、民生主義）に基づく民主共和制。五権分立（行政、立法、司法、考試、監察）。
総統	蔡英文 / 賴清徳（2024年5月20日～）
主要産業	電気・電子、化学品、鉄鋼金属、機械
GDP	名目：7,560億米ドル（2023年） 1人あたり：32,358米ドル（2023年）
通貨	新台湾ドル（NTD） 1 NTD≒4.7円（2024年2月1日時点）

① 台湾の基礎データ Part 2



- 台湾の人口総数は2023年12月現在、2,342 万人。「40～44歳」のいわゆる働き盛り世代が人口の中で最も多い割合を占める
- 人口は2019年をピークに減少に転じている
- 2070年には1,502万人～1,708万人まで減少すると見込まれている。同時に高齢化も進行しており、2070年には高齢者比率が43.6%まで高まると予測されている

②台湾農産物の現状 Part 1

■台湾における主な農水産品の生産量、食糧自給率(2022年)

- 米は台湾の主要農産品の1つであり、自給率は103.9% (熱量ベース)。小麦、大豆の生産量は少なく、自給率は1%に満たない
- 畜産品のうち、肉類では豚肉の生産量が最も多く、約84万トン(自給率は88.5%)。一方で牛肉の生産量は約8,000トン(自給率は4.6%)にとどまる

②台湾農産物の現状 Part 2

- 野菜、果樹類ではキャベツ、かんしょ(さつまいも)の他、熱帯果樹類(パイナップル、バナナ、マンゴー、グアバ等)の生産量が多い
- 水産品では、かつお類、まぐろ類、貝類(うち約7割がはまぐり)、頭足類(うち約9割がいか)の生産量が多い
- 台湾の食糧自給率(全体)は30.7%(2022年)であり、直近5年間は減少傾向である。

②台湾農産物の現状 Part 3

台湾における主な農水産品の品目別生産量（2022年、トン）

米、小麦、大豆	
米	1,251,511
小麦	655
大豆	5,619

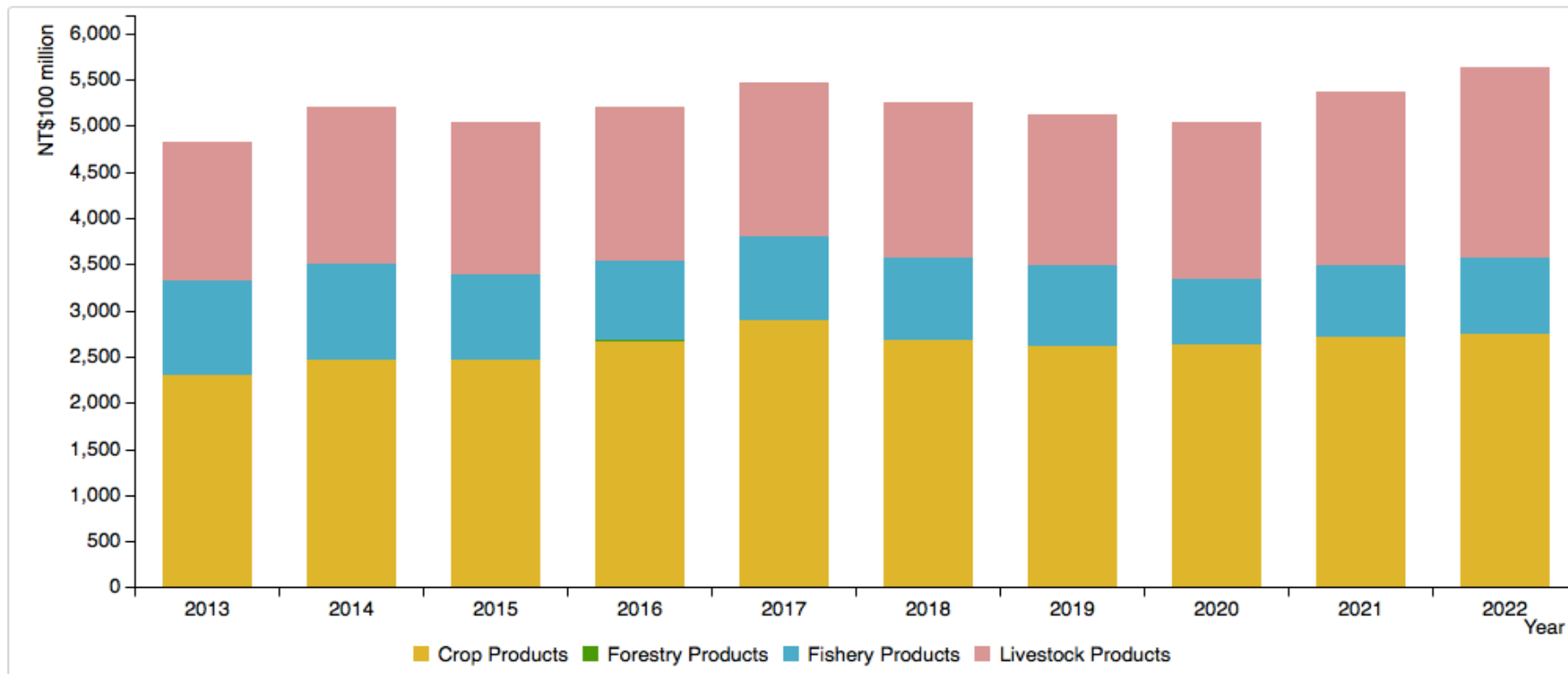
畜産品	
牛肉	8,071
豚肉	838,436
鶏肉	680,405
鶏卵	456,991
牛乳	463,095

野菜、果樹類	
キャベツ	422,406
パイナップル	382,333
バナナ	351,468
かんしょ	224,212
グアバ	197,385
...	...
ぶどう	65,549
かき	64,656
もも	17,068
いちご	6,572
りんご	1,406

水産品	
かつお類	183,036
まぐろ類	147,984
貝類	74,854
頭足類	72,537
ティラピア	57,802
...	...
さば	45,231
たい類	2,125

②台湾農産物の現状 Part 4

Production Value of Agricultural Products



台湾農作物統計データ：Taiwan Council of Agriculture
より

②台湾農産物の現状 Part 5



参考：台湾ロピア店舗での青果販売風景



③日本の農産物輸入の問題点 Part 1

◆放射能に関する規制

- **背景:** 台湾では福島原発事故以降、日本産食品の放射能に関する厳しい規制が導入されている
- **影響:** 一部地域（福島、茨城、群馬、千葉、栃木）の産品に対して、輸入が制限されている
- **対応策:** 日本側で安全性を証明するためのモニタリングと検査体制の強化が必要

③日本の農産物輸入の問題点 Part 2

◆残留農薬に関する規制

- **背景:** 台湾では輸入農産物の残留農薬に対し厳しい規制が導入されている
- **影響:** 生産者が使用する農薬の変更や農法変更が必要となり、残留農薬検査のコストが発生し生産者、青果市場、卸商社の負担となる
- **対応策:** 使用可能な農薬の情報を迅速に取得、防除歴のモニタリングと検査体制の強化をすることにより生産者の負担を軽減させる

③日本の農産物輸入の問題点 Part 3

◆食品の安全性と認知度

- **背景:** 台湾市場では食品の安全性に対する意識が高まっている
- **影響:** 日本産食品の安全性についての理解が不足している場合、消費者の信頼を得るのが難しくなる
- **対応策:** 食品の安全性に関する情報提供やプロモーション活動を通じて、信頼性を高める必要がある

③日本の農産物輸入の問題点 Part 4

◆価格競争力の欠如

- **背景:** 台湾市場は競争が激しく、価格敏感な消費者が多い
- **影響:** 日本産の高品質な農産物は、価格が高くなる傾向がある
- **対応策:** 高付加価値商品としての差別化戦略や、コスト削減による価格競争力の向上が求められる

③日本の農産物輸入の問題点 Part 5

◆流通および物流の問題

- **背景:** 台湾への輸出には効率的な物流体制が不可欠
- **影響:** 適切な温度管理や迅速な配送が不足すると、商品品質の低下や消費者不満を招く可能性がある
- **対応策:** 冷蔵・冷凍チェーンの改善や、物流コストの削減を図ることが重要となる

③日本の農産物輸入の問題点 Part 6

◆政治的および経済的要因

- **背景:** 政治的な緊張や経済政策の変更が、輸出環境に影響を及ぼすことがある
- **影響:** 貿易協定や関税の変更により、輸出コストや手続きが複雑化することが考えられる
- **対応策:** 継続的な情報収集と、政策変更への柔軟な対応が求められる

④日本の農水省に期待すること Part 1

- ◆日本国から台湾に対する農薬規制緩和交渉の継続
 - ・一部の農産品に対し農薬規制の改善はしているが強固な姿勢で継続交渉を望む
- ◆OMARS（海外の食品規制チェックサイト）を生産者、市場、商社が効率的な使用の拡散

<https://export-regulations.maff.go.jp/D0121RacTop>

④日本の農水省に期待すること Part 2

◆輸送物流コスト増による販売価格の上昇を抑える仕組み

- 効率的な補助金や助成金の更なる導入
- 現地にての小売価格に影響が生じ中間層や大衆層に販売拡大するうえで大きなマイナス要因となる

◆輸送梱包資材の開発

- 貿易輸送される農林水産物の鮮度維持に使用する安価な梱包資材の開発
- 開発はされているが資材の値段が高価な場合が多く実践導入にはコスト感で使用障壁がある

⑤日本の農業従事者に期待すること Part 1

- 海外需要の高い品種の生産をおこなう
- 海外輸送に耐えられる品種を積極的にとりいれ品質を確保する
- 海外貿易を見据えた生産体制をおこない安定的な生産量と生産力の向上を強化する
- 生産者の高齢化が進んでおり、需要拡大に伴う労力不足が顕著となっているため、若手や外国人労働者のヒューマンリソースを強化する
- 園地や技術の円滑な事業継承をおこない地域でのブランディングをおこなう

⑤日本の農業従事者に期待すること Part 2

- 輸出先国の残留農薬基準に対応できる防除歴の仕組みを整備・構築する
- 長期輸送販売に対応した品質保持の工夫と強化
- 出荷時の害虫検査を強化し混入を防ぐ
- 新たな技術導入による労働生産性の向上に向けた取り組みを強化する

⑥日本の農産物インポーターに期待すること

Part 1

- 最短での通関をおこなうべく通関時に必要となる書類の事前準備を確実におこない鮮度保持と品質保持を担保する
- 残留農薬基準、検疫基準、輸入規制に対する知識を向上させ、現地支分先や日本側と密な情報共有を行い、迅速な通関ができるよう体制構築をする
- コールドチェーン物流の確保と現地物流ドライバーへの安全運転指導が不可欠
- 海外バイヤーや取引先に対し、産地の取り組みやこだわり、差別化ポイントを伝える重要な役割

⑥日本の農産物インポーターに期待すること

Part 2

- 農林水産物に対する知識向上をおこない、貿易対象物が掛かりやすい害虫や病気に対しての知見を強化する
- 輸出先マーケットを注意深く観察しどのように農林水産品をマーケットインさせるかを熟考しバイヤーや取引先に提案する
- 貿易通関費用や輸送コストの削減を図る
- 将来にわたり継続的に取引が可能な輸出業者を含めた商流の構築

⑦日本の市場関係者に期待すること

Part 1

- 輸出先国実需者及び輸出事業者の需要（品質、量）に対応できる集荷体制の整備
- 海外輸送や海外規制を観点に置き、品質の高い農産品を海外向けに仕入れる
- 海外の残留農薬規制や検疫条件、貿易における知識を向上させる
- 流通コストの低減に向けた対策について物流業者を含めた検討が必須

⑦日本の市場関係者に期待すること

Part 2

- 産地、組合員とのコミュニケーションを強化し、声や意見を直接にヒアリングすることで産地の魅力を発信する
- 消費者と生産者の相互理解
- 市況に左右されない安定的な調達と品質担保を海外貿易向けに取り組む